

令和 7 年度 愛知県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して英語を使う楽しさを実感し、主体的に英語を学び続ける児童の育成

☐ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力 (パフォーマンステスト含む)
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用 (AIを除く)
 ☐ AIの活用
 ☒ その他

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① R6全国学力・学習状況調査の質問調査において、英語の「勉強は好きか」に肯定的に回答する割合が、国語と算数と比較して高い。

(英語：67.1% 国語：55.6%
算数：60.3%)

未だ改善が必要な点

① R6全国学力・学習状況調査の質問調査において、英語の「授業の内容はよく分かるか」に肯定的に回答する割合が、国語と算数と比較して低い。

(英語：76.3% 国語：82.1%
算数：80.8%)

2. 要因分析

① 英語を学ぶことで異文化に触れる機会が増えることや、楽しく学ぶことができる授業づくりを学校で工夫しているため、児童の興味・関心が高まっていると考える。

① 体験的な言語活動を実施できている一方で、「何ができるようになったか」が、児童に見えづらくなっていると考え。小学校においてもコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識した言語活動を設定し、児童が自己調整を図ることができるよう指導した上で、パフォーマンステスト等を適切に位置付けることが必要であると考え。

3. 目標を達成するための施策・事業

① 学習者用デジタル教科書の活用の推進
「愛知県小・中学校教育課程研究集会」にて、学習者用デジタル教科書を活用した授業の実践事例を基に、研究協議を行う。共有した好事例を地区代表である参加者が、各地区における研修会等で広めることで、さらに児童の興味・関心を高める。

① 外国語教育担当指導主事会（10月実施予定）
「愛知県小・中学校教育課程研究集会」を受けて、外国語教育担当指導主事会を今年度から開催し、愛知県の英語教育の現状とその要因について説明するなどして、授業改善の推進を図る。

① 県作成研修動画活用の推進
オンデマンドで配信している県作成研修動画（言語活動を中心とした実際の授業を編集したもの）を、「言語活動が目指している資質能力を育成する内容になっているか」など授業改善を図るため、各学校の現職教育研修等での活用を促す。

・令和 6 年度実施の教員採用選考試験（令和 7 年度採用）では、小学校教諭受験者のうち、英検準 1 級などの英語力を有すると認めた受験者を第一次試験で加点対象とした。今年度実施の教員採用選考試験において、引き続き「小学校英語」の加点項目を設けたり、英語を含めた複数免許状取得者・取得見込み者に加点項目を設けたりして、一定の英語力を有する者の人材確保に努める。

令和7年度 愛知県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して英語によるコミュニケーションに積極的に取り組み、主体的に英語を学び続ける生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：51.9％⇒R7：55％）

☐ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☒ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①中学3年生でCEFR A1相当以上の英語力を有している生徒の割合が、5割に到達。
(R5全国50.0%、愛知県R5:35.6%⇒R6:51.9%)

未だ改善が必要な点

①R6全国学力・学習状況調査の質問調査において、いずれの言語活動の実施についても、教師と児童の受け止めに差がある。
(やり取り 生徒:60.8%、教師:74.9% 差14.1%)

②学習者用デジタル教科書を用いた学習活動が100%でない。(R6:91.3%)

2. 要因分析

①各地域の代表者が集まる「愛知県小・中学校教育課程研究集会」等で、文部科学省のCEFRレベルと紐づけられたCBT問題の活用方法とともに、CEFR A1相当の英語力について伝えることで、教師による、客観的な生徒の英語力の把握が進んだ。

①コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にした言語活動が設定されていない、又は教師の一方的なものになっており、子供が自分事として、活動の目的を意識していないことが原因であると考え。

②英語の授業における学習者用デジタル教科書の良さや効果的な活用方法の周知が進んでいないことが原因であると考え。

3. 目標を達成するための施策・事業

①授業改善の推進

県作成研修動画（言語活動を中心とした実際の授業を編集したもの）をオンデマンドで配信し、各学校の現職教育研修等において、活用を促すことで授業改善を図る。さらには同動画を小中連携の題材として活用するように周知する。

①小・中・高を通したシームレスな英語教育の推進

高校も含めた3校種が連携した英語教育を推進する必要がある。令和5年度より実施している「あいちリーディングスクール事業」の地区別授業研修により小中高連携を図り、10年間を見通した英語教育を目指す。

①外国語教育担当指導主事会（10月実施予定）

各地域の英語教育担当の指導主事を対象に、愛知県の英語教育の状況や学習者用デジタル教科書の活用の好事例等を紹介するなどして、授業改善の推進を図る。

②学習者用デジタル教科書の活用の推進

「愛知県小・中学校教育課程研究集会」にて、「学習者用デジタル教科書を活用した授業の在り方について」の実践事例を基に、研究協議を行う。その後、そこでの好事例を地区代表である参加者が、各地区における研修会等で広める。

令和 7 年度 愛知県 英語教育改善プラン

世界とつながり、生き生きと活躍するために必要な力の育成

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 46.6%、B1以上 17.9% ⇒ R7 : A2以上 50.0%、B1以上 25.0%)

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A2レベル相当の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合について、昨年からわずかに増加した。
(R5:46.1%⇒R6:46.6%)
②授業において、「1人1台端末等を用いた発表や話すことにおけるやり取りを行う生徒」の割合が増加した。
(R5:87.7%⇒R6: 89.0%)

①CEFR B1レベル相当の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合について、昨年からわずかに減少した。
(R5:18.3%⇒R6:17.9%)
②授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合について、昨年からわずかに減少した。
(R5:37.8%⇒R6:35.2%)

2. 要因分析

①令和 5 年度より実施している「あいちリーディングスクール事業」によって、授業改善及び指導と評価の一体化が進み、生徒の英語力が伸ばしたと考えられる。
②高等学校教育課程愛知県協議会等において、外国語教育におけるICT活用の利点を伝え、授業における活用が進んだことが要因であると考えられる。

①「あいちリーディングスクール事業」によって、英語教育の裾野を広げることには一定の成果があったが、グローバルに活躍することが期待される層を育成するまでに至っていないことが要因と考えられる。
②「あいちリーディングスクール事業」や教育課程愛知県協議会等において、言語活動の意義を十分に伝えられなかったことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「あいちリーディングスクール」の一層の推進
「あいちリーディングスクール事業」において、専門学科等を有する学校を新たに事業指定校に加え、授業改善及び指導と評価の一体化をさらに推進することで、英語教育の裾野を広げ、本県全体の英語力の一層の向上を目指す。
②ICTを活用した授業実践事例の共有
「あいちリーディングスクール事業」の事業指定校の一つである「研修推進校」とおして、ICT及びAIを活用した授業実践のノウハウを他校へ共有する。また、音読やライティングなどの活動においてAIの活用を促していく。
①イングリッシュフォーラムの活用
地区別授業研修や、各校の英語教育における取組等を発表する「イングリッシュフォーラム」において、グローバルに活躍することが期待される層の育成に資する学校の取組を多くの学校に紹介する。その際、生徒の英語力を適切に見取るよう伝えていく。
②ICT及びAIを活用した言語活動事例の横展開
教育課程協議会等において、五つの領域別の言語活動及びそれらを結び付けた統合的な言語活動について、ICT及びAIを用いた具体的な事例を紹介し、生徒が主語となる学びの中で、言語活動を一層充実させ、生徒の英語力を向上させる方策を検討する。
(参考URL : <https://apec.aichi-c.ed.jp/cms/page-3261/page-4136.html>)

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

愛知県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	46.1	50	46.6	50		50		50	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	25	18.3	25	17.9	25		25		25	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	50	37.8	50	35.2	50		50		50	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	40	37.8	40	37.6	40		40		40	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	94.3	100		100		100		100
		公表(%)	50	39.2	50		50		50		50
		達成状況の把握(%)	60	53.4	60		60		60		60
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	70	77.4	80	76.7	80		80		80	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	25.4	50	25.8	50		50		50	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	35.6	50	51.9	55					
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90	54.5	90		90					
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	66.2	90		90					
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	88.3	100		100				
		公表(%)	80	53.5	80		80				
		達成状況の把握(%)	80	69.2	80		80				
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	36.5	40	36.8	40					
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90	43.4	50		50					

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	72.3	100		100				
		公表(%)	80	38.6	80		80				
		達成状況の把握(%)	80	59.8	80		80				